

岩手県における初等・中等教育段階での 防災教育の実施状況について

報告書

目次

1. 調査目的	2
2. 調査手法	2
3. 調査結果	
3. 1 岩手県の地域区分と災害面から見た地域特性	3
3. 2 各種防災教育実施状況	6
3. 3 防災教育に充てられる時間	9
3. 4 防災教育の重要性	10
4. 結果の要点	12
[付属資料]	
調査票／素集計票	

2008年8月

岩手県立大学総合政策学部牛山研究室

岩手県大船渡地方振興局

本報告書について

この報告書は、平成 18 年度岩手県立大学公募型地域課題研究「中・高校生を主な対象とした地域防災連携アクションプランに関する研究」の一部として行われた岩手県内の小、中、高等学校を対象とした調査結果のうち、特に主要な結果をとりまとめたものである。

なお、調査の基礎的な作業は、岩手県立大学総合政策学部地域政策講座が開講している実習科目「地域調査実習 II，地域調査実習 III」の一環として行った。同実習の受講学生は後藤尚美，近藤佳子，鈴木智善，橘逸美，吉田亜里紗の 5 名である。

調査実施に当たり、調査対象となった岩手県内の小、中、高等学校の関係各位からは、ご多忙の中、多くの貴重なご意見をいただいた。また、聞き取り調査の実施にご協力いただいた篠木准教授をはじめ地域政策講座の教員各位からは様々なご指導をいただいた。この場を借りてお礼を申し上げたい。

2008 年 8 月

岩手県立大学総合政策学部 准教授 牛山 素行

1. 調査目的

防災対策の一手法として、経験や伝承なども含めた広い意味での防災教育が重要であることは明白である。わが国においては、特に1995年の阪神・淡路大震災以降に防災教育に対する関心が高まりつつあり、各種の教材が整備されつつあるが、防災教育を巡る情勢も年々変化しており、今後の学校や地域での防災教育のあり方を考える上では、まず体系的な現状把握が重要である。

本調査は、岩手県を対象とし、小、中、高校においてどのような防災教育が行われているかを把握することを目的とする。岩手県は、過去に大規模な津波災害などを経験しており、津波災害を中心とした自然災害に対する関心が高い可能性がある。しかし、いずれの災害も発生から数十年が経過しており、経験や記憶が風化していることも考えられる。また、津波を直接経験している沿岸部と、直接関係のない内陸部では、取り組みに違いがあることも考えられる。そこでここでは、以下のような観点から、調査を行うこととした。

- 岩手県で過去に発生した主要災害についての教育状況
- 副読本配布、講演会実施、体験施設見学、パネル展示など、教科教育以外の防災関連教育の実施状況
- 今後の防災関連教育の実施可能性についての見通しや重要性の評価
- これら防災教育の実施状況等の地域別の違い

2. 調査手法

調査対象は、岩手県教育委員会発行の「学校一覧 平成19年度」をもとにして、2007年度に岩手県内に所在したすべての小学校、中学校、高等学校とした。なお、小学校および中学校の分校は除外し、特別支援学校についても除外している。この結果、調査対象の学校数は、小学校426、中学校198、高等学校93の合計717校となった。

調査票は、2008年2月1日に各学校宛に郵送送付し、同年4月上旬までに郵送回収した。回答は、平成19(2007)年度の実績および同年度中(平成20年3月まで)の予定にもとづいて記入を依頼した。有効回答は588通(小学校348、中学校170、高校69、校種不明1)、回収率は82.0%だった。

3. 調査結果

3. 1 岩手県の地域区分と災害面から見た地域特性

本調査では地域区分を「内陸」と「沿岸」の2区分とし、市町村単位で地域を区分することとした。地域区分の定義としては、気候特性も考慮し、気象庁が天気予報等で用いている1次細分区をもちい、細分区「沿岸北部」および「沿岸南部」に含まれる市町村を「沿岸」、細分区「内陸」に含まれる市町村を「内陸」に分類した。「沿岸」は配布数で見ると14市町村232校、「内陸」は21市町村485校、比は32.4:67.6となる。

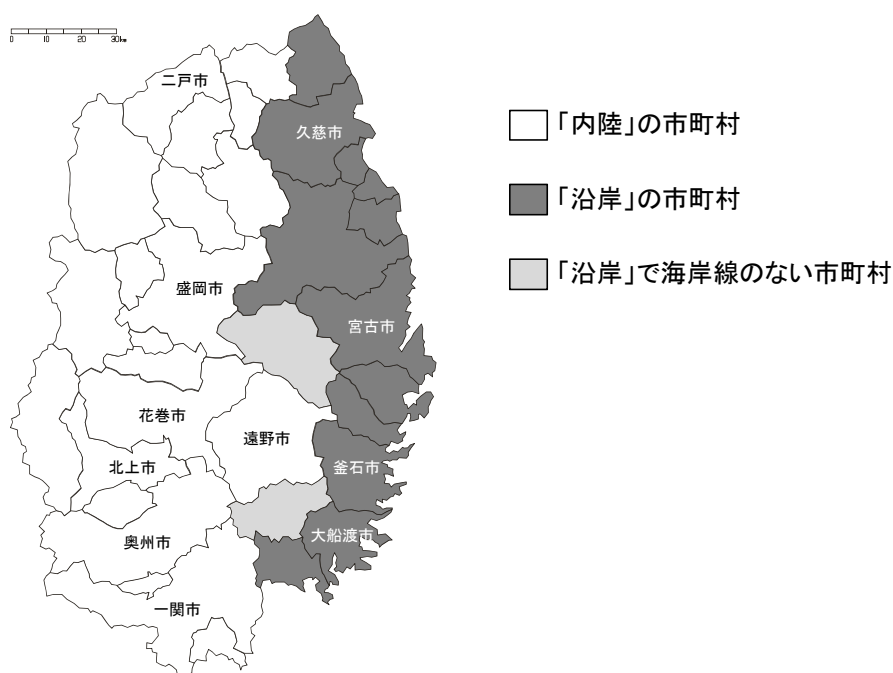


図1 「内陸」および「沿岸」市町村の位置

「沿岸」および「内陸」における自然災害に対する危険性は、ハザードの種類によって異なる。

まず、津波については「内陸」では危険性はほぼないと言っていい。また、岩手県から公表されている津波浸水予測図によると、予想されている津波到達範囲はもともと内陸側に進入する箇所でも2, 3 km 程度であり、「沿岸」でも直接影響を受ける可能性のある範囲は限定的である。

火山については、岩手県内には活火山が7箇所(七時雨山, 八幡平, 岩手山, 雫石高倉, 笹森山, 焼石岳, 栗駒山)あり、そのうち歴史時代に噴火記録がある活火山は岩手山, 栗駒山の2箇所である(理科年表)。これらの活火山の所在地はいずれも「内陸」である。火山の活動規模にもよるが、火砕流, 火山泥流, 降灰などによる直接的影響を受ける地域は、ほぼ「内陸」に限定される。

大雨による洪水や浸水については、その危険性評価が容易ではないが、一つの目安とし

て地形分類図をもとに、一般に地形的に浸水の可能性がある「低地」と分類される地形の面積を見ると、「内陸」が全県の9割近くを占めている(図2)。もともと「内陸」の方が「沿岸」より面積が広いが、低地面積率を計算すると、「内陸」は0.128,「沿岸」は0.037となり、明らかに「低地」は「内陸」に偏在している。また、カスリン台風、アイオン台風をはじめとし、過去に発生した顕著な洪水災害はいずれも「内陸」で記録されている。大雨による洪水の危険性は、「内陸」の方が高いと言えそうである。

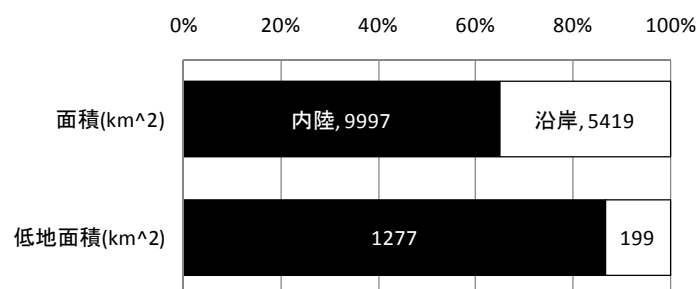


図2 地域別面積と低地面積

崖崩れ、土石流などの土砂災害の危険性については、すでに整備されている土砂災害関係の指定箇所数が参考になる。岩手県地域防災計画に収録されている、急傾斜地崩壊危険箇所市町村別一覧と、土石流危険渓流市町村別一覧をもとに、「内陸」と「沿岸」の土砂災害関係指定箇所数を整理すると図3のようになる。急傾斜地崩壊危険箇所、土石流危険渓流ともに「沿岸」の方が多くなっている。単位面積あたりの急傾斜地崩壊危険箇所数でも、「内陸」0.069箇所/km²,「沿岸」0.204箇所/km²,となり、明らかに「沿岸」の方が多い。土砂災害については、「沿岸」の方が発生しやすいとみなせそうである。

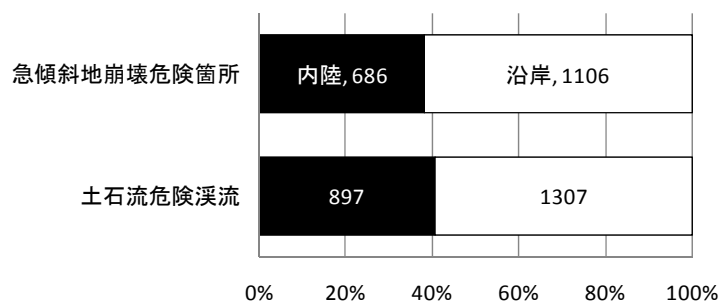


図3 地域別土砂災害関係指定箇所(値は危険箇所数および溪流数)

地震については、「内陸」と「沿岸」の違いを明瞭に示すことが難しい。岩手県に影響をもたらす地震としては、岩手県沖の日本海溝付近で発生するプレート境界地震(海溝型地震)

と、県域内の活断層の活動で発生するプレート内地震(内陸直下型地震)が考えられる。岩手県地域防災計画によると、プレート境界地震である「想定宮城県沖連動地震」では、大船渡市、陸前高田市、旧花泉町、藤沢町、旧川崎村で震度 6 弱が予想され、死者 10 人、建物全壊 277 棟などが予想されており、「沿岸」で地震そのものによる被害が生じる可能性は十分ある。ちなみに「想定宮城県沖連動地震」による津波では、死者 110~1000 人、全壊 1300~4300 棟が予想されており、被害の中心は津波によるものである。同じ資料によると、内陸部では「北上低地西縁断層群北部地震」の場合、滝沢村から花巻市付近で震度 6 弱が予想されており、これにより死者 97 人、建築物「大破壊」が 5313 棟と予想されている。北上低地西縁断層群の活動による地震は、いくつかのパターンが予想されており、すべて合わせると奥州市付近から滝沢村付近までの範囲で震度 6 弱が予想されている。すなわち、地震に関しては、「内陸」と「沿岸」のどちらか一方が特に危険性が高いとは言えそうにない。現に、2008 年 6 月 14 日に、岩手県内陸南部を震源とする「平成 20 年岩手・宮城内陸地震」があったことは記憶に新しい。

表 1 「内陸」・「沿岸」の自然災害に対する危険性の比較

	内陸	沿岸
津波	ほぼ無し	有り、数百人以上の被害予測
火山	有り(活火山7)	ほぼ無し
洪水	有り、沿岸より危険性高	有り、内陸より危険性低
土砂災害	有り、沿岸より危険性低	有り、内陸より危険性高
地震	有り	有り

以上の検討結果を整理すると、上の表のようになる。過去に数万人規模の人的被害を生じ、今後も数百人規模の人的被害が予測されている津波災害は、「沿岸」のみに影響する災害であり、これだけを見れば、「沿岸」の方が災害に対する危険性が高いように思える。しかし、地震については「内陸」と「沿岸」の危険性は大きな違いはなく、より発生頻度の高い洪水や土砂災害については、前者が「内陸」で危険性が高く、後者は「沿岸」で危険性が高いという状況である。すなわち、可能性のある災害すべてを考慮すれば、「内陸」と「沿岸」ではどちらかが特に災害に対する危険性が高い(あるいは低い)とは言えないと思われる。

3. 2 各種防災教育実施状況

様々な防災教育の例を挙げ、その実施状況について尋ねた結果が図4である。なお、ここでは結果を単純化して示すために、「児童・生徒全員を対象に実施」「特定学年にのみ実施」「一部の児童・生徒を対象に実施」の合計を「実施」、「実施していない」「詳しく把握していない」の合計を「非実施・他」としている。また、教職員の防災関係の研修への参加は、「受講・参加している教職員がいる」が「実施」、「受講・参加している教職員はいない」「詳しく把握していない」の合計が「非実施・他」としている。防災関係の展示については、「常設の展示を行っている」と「期間を限った展示を行った」の合計が「実施」、「行っていない」「詳しく把握していない」の合計が「非実施・他」としている。

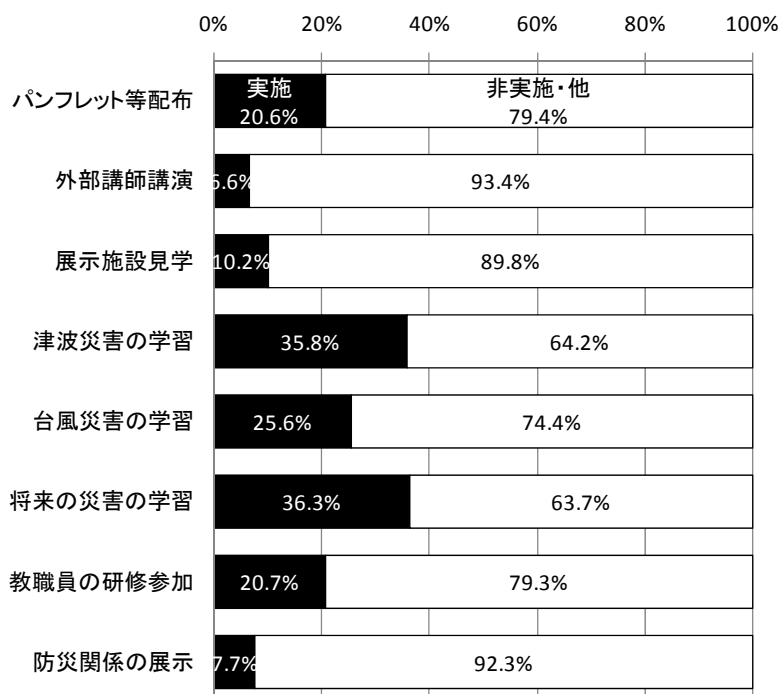


図4 各種防災教育の実施状況

表2 各種防災教育の実施状況(回答数)

	パンフレット等配布	外部講師講演	展示施設見学	津波災害の学習	台風災害の学習	将来の災害の学習	教職員の研修参加	防災関係の展示
実施	120	39	60	210	150	213	121	45
非実施・他	463	549	528	376	437	373	464	543
合計	583	588	588	586	587	586	585	588

全般に実施率は低く、もっとも実施率の高い「岩手県で過去に発生した三陸津波、チリ津波などの津波災害についての紹介や学習」や「岩手県で将来発生が予想される地震、津波、台風や大雨による災害、火山災害についての紹介や学習」でも36%前後にとどまって

いる。副読本やパンフレットの配布などは、実施が容易のようにも思われるが、実施率はかならずしも高くない。

自由回答では、防災教育に用いる適当な教材が不足しているといった指摘もあった。未成年者を含めた防災教育の教材にはさまざまなものがある。学校向けのものとして例を挙げると、内閣府が後援している「防災教育チャレンジプラン」web内(<http://www.bosai-study.net/>)には様々な取り組み例が紹介されている。また、土木学会が刊行している「DVD 日本に住むための 必須!! 防災知識」シリーズ(小学校低学年, 中学年, 高学年, 中学・一般用に分かれている)も有益である。関連図書もいくつかあり、たとえば、「夢みる防災教育」(矢守克也ほか著, 晃洋書房), 「教師のための防災教育ハンドブック」(山田兼尚編, 学文社)などが挙げられる。まず、どのような防災関係教材があるのかに関しての情報提供を、地域の実情も踏まえて進めることが必要かもしれない。

比較的实施率が高かった防災教育の項目について、「内陸」と「沿岸」別に集計した結果が図5である。「台風災害の学習」以外のすべての項目について、「沿岸」の方が「内陸」より実施率が高くなっている。3.1で述べたように、災害全般を考慮すると、内陸、沿岸のどちらかが特に災害に対して危険(あるいは安全)といったことはない。それぞれの地域において想定される災害の危険性を考慮した教育内容が望まれる。このためにも、それぞれの地域の実情に応じた教材あるいは情報に関する検討が必要になってくるだろう。

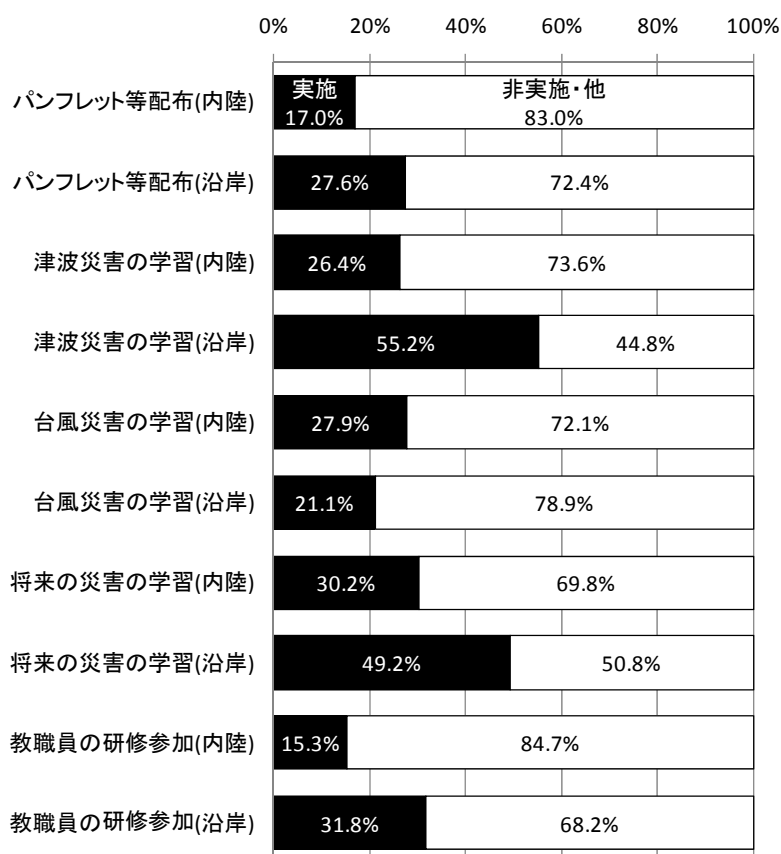


図5 各種防災教育の実施状況(地域別)

表3 各種防災教育の実施状況(地域別)

	パンフレット等配布(内陸)	パンフレット等配布(沿岸)	津波災害の学習(内陸)	津波災害の学習(沿岸)	台風災害の学習(内陸)	台風災害の学習(沿岸)	将来の災害の学習(内陸)	将来の災害の学習(沿岸)	教職員の研修参加(内陸)	教職員の研修参加(沿岸)
実施	66	53	103	107	109	41	118	95	60	61
非実施・他	323	139	287	87	282	153	273	98	331	131
合計	389	192	390	194	391	194	391	193	391	192

3. 3 防災教育に充てられる時間

「仮に、学校側は時間を提供するのみでよいという条件で、授業時間中に、なんらかの防災教育を行うとしたら、1年間に何時間くらいを当てることが可能だと思いますか。最も多くの時間を当てることができる学年の場合についてお答え下さい。」に対する回答が図6である。「1時間」だけで34%に上り、3時間以下で90%以上を占める。様々な機能を求められる現代の学校においては、「自己の負担無し」という条件下であっても防災教育に割ける時間はかなり限定的であると考えられる。防災教育の推進者側は、ともすれば学校に対して大きな期待を寄せてしまうこともあるが、学校側の事情も十分に踏まえた上での現実的な取り組みを進めることが望まれる。

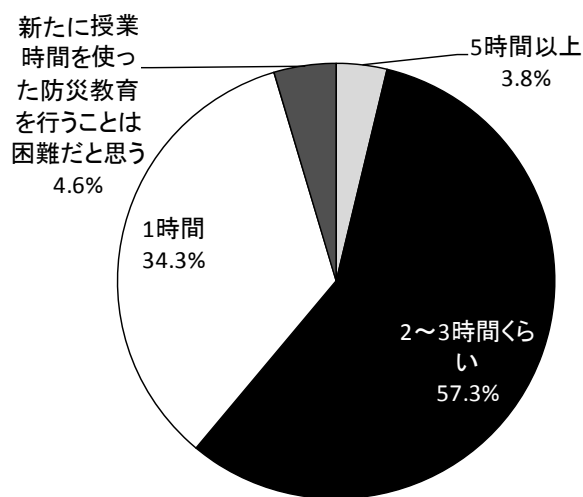


図6 防災教育に充てられる時間

表4 防災教育に充てられる時間(回答数)

5時間以上	22
2～3時間くらい	336
1時間	201
新たに授業時間を使った防災教育を行うことは困難だと思う	27

3. 4 防災教育の重要性

「貴校において、総合的な学習の時間や特別活動などの教科教育以外の時間に取り上げる題材・テーマとして、「自然災害」や「防災」は、他の様々な題材(「環境」など個別的テーマのほか、進路指導なども含みます)と比較すると、どの程度の重要性があると考えられるでしょうか。」に対する回答が、図7である。重要性が高いとする回答(非常に重要性が高い、重要性はやや高い)は合わせて39%程度で、過半数に満たない。3. 3でも述べたように、学校教育で取り扱うことが期待されている内容は多岐にわたっており、防災教育はその one of them であって、決して特別な存在ではないことがここからも示唆される。教育＝学校、と固定的にとらえず、様々な機会を生かした防災教育の可能性を探っていくことが重要だろう。

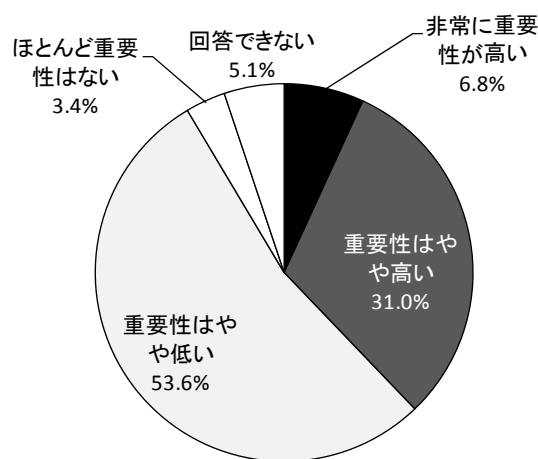


図7 防災教育の重要性

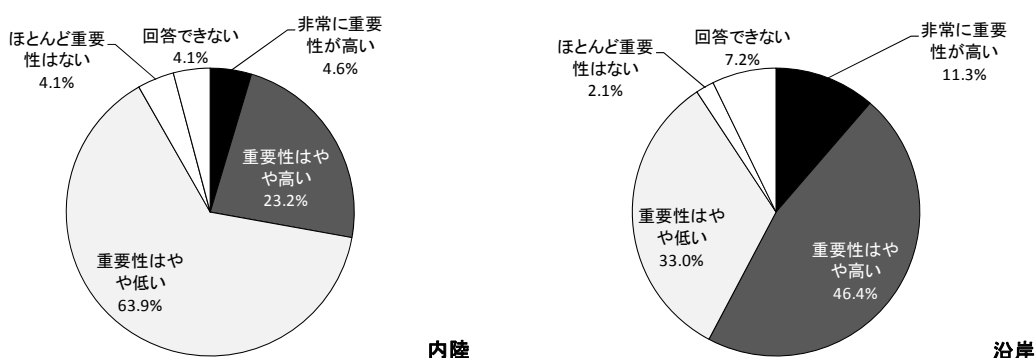


図8 防災教育の重要性(地域別)

この質問に関しても、「沿岸」では重要性が高いとする回答が6割近くに達したのに対し、「内陸」では3割弱にとどまっており、地域による差が明瞭に現れた。繰り返し指摘しているように、「沿岸」と「内陸」で、災害に対する危険性に大きな違いはなく、従って、防

災教育の重要性にも大きな違いがあるとは言えない。まずはそれぞれの地域において起こりうる災害を、ハザードマップ等で把握するなどして、地域の実情に応じた防災教育を行うための環境整備が望まれる。

表5 防災教育の重要性(回答数)

	全県	内陸	沿岸
非常に重要性が高い	40	18	22
重要性はやや高い	181	90	90
重要性はやや低い	313	248	64
ほとんど重要性はない	20	16	4
回答できない	30	16	14

4. 結果の要点

●調査概要・背景

- 調査は2007年度に岩手県内に所在した小学校426校、中学校198校、高等学校93校の合計717校を対象とした。2008年2月1日に各学校宛に調査票を郵送し、有効回答588通(小学校348, 中学校170, 高校69, 校種不明1)を得た。回収率は82.0%だった。
- 岩手県内を「内陸」, 「沿岸」の2地域に分類すると、可能性のある災害すべてを考慮すれば、どちらかが特に災害に対する危険性が高い(あるいは低い)とは言えない。

●防災教育の実施状況

- いくつかの防災教育の内容を挙げ、その実施状況を尋ねたところ、最も多かった「副読本やパンフレットの配布」でも何らかの形で実施しているとの回答は全体の20.6%で、他は1割前後だった。
- 地域に関わる自然災害についての紹介や学習を、教科教育・総合的学習の時間・特別活動などの場で実施しているか尋ねたところ、「津波災害」は実施率35.8%, 「将来発生が予想される災害」同36.3%, 「台風災害」同25.6%と、必ずしも高くなかった。
- 「内陸」「沿岸」で実施率を比較すると、ほとんどの項目で沿岸が高かったが、最も高い「津波災害」でも55.2%と半数強程度だった。

●防災教育に充てられる時間や重要性の評価

- 学校側は時間を提供するのみでよいという条件で防災教育を行うとしたら、1年間に何時間当てられるか尋ねたところ、「1時間」が34.3%, 「2~3時間」が57.3%と、3時間以下が9割以上を占めた。
- 「総合的な学習の時間や特別活動などの教科教育以外の時間に取り上げる題材・テーマとして、『自然災害』や『防災』は、他の様々な題材と比較すると、どの程度の重要性があると思いますか」に対しては、「非常に重要性が高い」と「重要性はやや高い」を合わせても37.8%にとどまった。
- 防災教育の重要性に関する認識でも、「非常に重要性が高い」と「重要性はやや高い」の合計が、沿岸57.7%, 内陸27.8%と、内陸と沿岸で明瞭な差が見られた。

●全般的なコメント

調査対象地における防災教育の実施状況は、過去にたびたび大規模な災害を経験している地域であることも考えると、必ずしも十分であるとは言えそうにない。しかし、実施に当てられる時間数の見通しなどを見ると、多様な要請への対応が求められる現代の初等・中等教育現場に、多くの時間を割くような防災教育を導入することも困難と考えられる。教育＝学校と固定的にとらえず、様々な機会、場を利用した防災教育の可能性を探っていく必要がある。

防災教育実施状況や、重要性評価などに見られた地域差は、津波災害に対する関心は高いが、他の災害に対する関心が相対的に高くないことを示唆しており、非常に関心の持たれる結果である。防災を考える上での第一歩は、その地域でどのような災害が起こるかを的確に理解することだろう。学校および地域社会に対し、それぞれの地域に応じた具体的な災害に対するイメージを喚起することが重要になってくるだろう。

付属資料

(1)調査票

(2)素集計表

防災教育に関するアンケート

岩手県立大学総合政策学部牛山研究室・岩手県大船渡地方振興局

本年度(平成19年度)の実績および本年度中(平成20年3月まで)の予定にもとづき、分かる範囲で結構ですので、ご回答下さい。よく分からない、あるいは当てはまる選択肢がない場合は、空欄のままとしていただいて結構です。

回答は、全て回答欄(黒枠内)に数字、または○記号を1つのみご記入下さい。一つの回答欄内に、複数の回答をご記入いただく設問はございません。

この調査で言う「自然災害」とは、地震・津波・大雨・火山など災害をもたらす自然現象のメカニズムや、引き起こされた災害の姿、被害を軽減するための対策(防災対策)など、災害に関わる全般的な事項を広く含む意味とします。ただし、火災、工場の爆発、テロなど、人の行為によって引き起こされた現象は対象としていません。

回答欄

1 貴校では、本年度、何らかの避難訓練・防災訓練を実施しましたか(3月末までの予定も含みます)。

1. 実施した(する予定)
2. 実施していない

避難訓練・防災訓練を実施した場合、その訓練ではどのような災害(この設問のみ、火災を対象とします)を想定しましたか。当てはまる災害の種類に○をつけてください。

2	<input type="text"/>	火災
3	<input type="text"/>	地震
4	<input type="text"/>	津波
5	<input type="text"/>	大雨・洪水
6	<input type="text"/>	がけ崩れ・土石流
7	<input type="text"/>	火山活動

貴校が所在する場所は、次に挙げるような自然災害に対して安全だと思いますか。近いものをそれぞれ一つ選び、数字に○をつけてください。

		安全	まあ安全	やや危険	危険	わからない
8	地震	1	2	3	4	5
9	津波	1	2	3	4	5
10	大雨・洪水	1	2	3	4	5
11	がけ崩れ・土石流	1	2	3	4	5
12	火山活動	1	2	3	4	5

13 児童・生徒が在籍している時間中に、気象台から気象警報(大雨, 洪水, 大雪, 暴風など。津波は除く)が発表された場合、どのように対応する計画になっていますか。

1. 原則として、全生徒を帰宅させる
2. 保護者の送迎など、安全な手段が確保された生徒に限り帰宅させる
3. 個別の状況を見て判断する
4. いずれも該当しない

14 **児童・生徒を対象に**、自然災害を主な内容とした副読本や、パンフレットを配布していますか。

1. 児童・生徒全員を対象に配布している
2. 特定学年にのみ配布している
3. 一部の児童・生徒に配布している
4. 配布していない
5. 詳しく把握していない

15 **児童・生徒を対象に**、貴校教職員以外の外部専門家や災害経験者などによる、自然災害に関する講演を実施していますか。避難訓練の際の消防署員による「講評」は除きます。

1. 児童・生徒全員を対象に実施している
2. 特定学年にのみ実施している
3. 一部の児童・生徒を対象に実施している
4. 実施していない
5. 詳しく把握していない

16 **児童・生徒を対象に**、岩手県立総合防災センター(矢巾町)のような、自然災害を主な対象とした展示・体験施設の見学を実施していますか。消防署の見学は除きます。

1. 児童・生徒全員を対象に実施している
2. 特定学年にのみ実施している
3. 一部の児童・生徒を対象に実施している
4. 実施していない
5. 詳しく把握していない

17 貴校教職員のなかには、職務の一環として、自然災害に関する研修会や講演会を受講・参加している人がいますか。

1. 受講・参加している教職員がいる
2. 受講・参加している教職員はいない
3. 詳しく把握していない

18 校内で、過去の災害の記録や、防災対策などに関する写真、パネルなどの展示を行ったことがありますか。ここで「展示」とは、複数の写真やパネルを並べて掲示するもので、啓発ポスターを1枚掲示するような形態は除きます。

1. 常設の展示を行っている
2. 期間を限った展示を行った
3. 行っていない
4. 詳しく把握していない

貴校では、以下のような内容についての紹介や学習を、教科教育・総合的学習の時間・特別活動などの場で実施していますか。

- 19 岩手県で過去に発生した三陸津波、チリ津波などの津波災害について
1. 児童・生徒全員を対象に実施している
 2. 特定学年にのみ実施している
 3. 一部の児童・生徒を対象に実施している
 4. 実施していない
 5. 詳しく把握していない

- 20 岩手県で過去に発生したカスリン台風、アイオン台風などの台風や大雨による災害について
1. 児童・生徒全員を対象に実施している
 2. 特定学年にのみ実施している
 3. 一部の児童・生徒を対象に実施している
 4. 実施していない
 5. 詳しく把握していない

- 21 岩手県で将来発生が予想される地震、津波、台風や大雨による災害、火山災害について
1. 児童・生徒全員を対象に実施している
 2. 特定学年にのみ実施している
 3. 一部の児童・生徒を対象に実施している
 4. 実施していない
 5. 詳しく把握していない

仮に、教材などが外部から無償で提供されるとしたら、下記のような取り組みを、来年度以降、貴校でも実施できる可能性はあると思いますか。もっとも当てはまるものに○をつけてください。現在既に実施しているものについては、今後の見通しをお答え下さい。

	確実に実施できる	実施の可能性は高い	実施の可能性は低い	実施は不可能である	回答できない
22 自然災害を主な内容とした副読本・パンフレットの配布	1	2	3	4	5
23 教職員以外の外部専門家や災害経験者などによる、自然災害に関する講演	1	2	3	4	5
24 自然災害を主な内容としたビデオ・DVDの上映	1	2	3	4	5
25 自然災害を主な対象とした展示・体験施設の見学	1	2	3	4	5
26 教職員による自然災害に関する研修会や講演会の受講・参加(参加費は無料)	1	2	3	4	5
27 過去の自然災害に関する写真・パネルの展示	1	2	3	4	5
28 岩手県で <u>過去に発生した</u> 津波や大雨などの災害について教職員が教えること	1	2	3	4	5
29 岩手県で <u>将来発生が予想されている</u> 災害について教職員が教えること	1	2	3	4	5
30 通学路や学区内の防災マップ作り	1	2	3	4	5

31

仮に、学校側は時間を提供するのみでよいという条件で、授業時間中に、なんらかの防災教育を行うとしたら、1年間に何時間くらいを当てることが可能だと思いますか。最も多くの時間を当てることができる学年の場合についてお答え下さい。

1. 15時間以上(1学期中の毎週1回以上)
2. 10時間程度(1学期中の2/3の週に1回くらい)
3. 5時間程度(1学期中の1/3の週に1回くらい)
4. 2～3時間くらい
5. 1時間
6. 新たに授業時間を使った防災教育を行うことは困難だと思う

32

貴校において、総合的な学習の時間や特別活動などの教科教育以外の時間に取り上げる題材・テーマとして、「自然災害」や「防災」は、他の様々な題材(「環境」など個別的テーマのほか、進路指導なども含みます)と比較すると、どの程度の重要性があると考えられるでしょうか。

1. 非常に重要性が高い
2. 重要性はやや高い
3. 重要性はやや低い
4. ほとんど重要性はない
5. 回答できない

これまでの質問に該当しない防災教育を実施しているようでしたら、ご紹介ください。取り組みを紹介した資料などを添付していただいても結構です。また、防災教育を行う上で、問題となっていることなどがあれば挙げてください。

33

34

貴校の学校種別を選んでください。

1. 小学校
2. 中学校
3. 高等学校

35

2008年1月末現在の、貴校の児童・生徒数を記入してください。概数でも構いません。

36

貴校が所在している市町村名をご記入下さい。

アンケートは以上です。ご多忙の所、ご協力いただき、本当にありがとうございました。

素集計表

Q1貴校では、本年度、何らかの避難訓練・防災訓練を実施しましたか(3月末までの予定も含みます)。

No	選択肢	回答数	比率(全体, %)	比率(有効, %)
1	実施した(する予定)	579	98.5	99.5
2	実施していない	3	0.5	0.5
	有効回答合計	582	99.0	100.0
	無回答	6	1.0	
	全体	588	100.0	

Q2避難訓練・防災訓練を実施した場合、その訓練ではどのような災害(この設問のみ、火災を対象とします)を想定しましたか。当てはまる災害の種類に○をつけてください。

No	選択肢	回答数	比率(全体, %)	比率(有効, %)
1	実施せず	16	2.7	2.7
2	火災	572	97.3	97.3
	全体	588	100.0	100.0

Q3避難訓練・防災訓練を実施した場合、その訓練ではどのような災害(この設問のみ、火災を対象とします)を想定しましたか。当てはまる災害の種類に○をつけてください。

No	選択肢	回答数	比率(全体, %)	比率(有効, %)
1	実施せず	96	16.3	16.3
2	地震	492	83.7	83.7
	全体	588	100.0	100.0

Q4避難訓練・防災訓練を実施した場合、その訓練ではどのような災害(この設問のみ、火災を対象とします)を想定しましたか。当てはまる災害の種類に○をつけてください。

No	選択肢	回答数	比率(全体, %)	比率(有効, %)
1	実施せず	521	88.6	88.6
2	津波	67	11.4	11.4
	全体	588	100.0	100.0

Q5避難訓練・防災訓練を実施した場合、その訓練ではどのような災害(この設問のみ、火災を対象とします)を想定しましたか。当てはまる災害の種類に○をつけてください。

No	選択肢	回答数	比率(全体, %)	比率(有効, %)
1	実施せず	580	98.6	98.6
2	大雨・洪水	8	1.4	1.4
	全体	588	100.0	100.0

Q6避難訓練・防災訓練を実施した場合、その訓練ではどのような災害(この設問のみ、火災を対象とします)を想定しましたか。当てはまる災害の種類に○をつけてください。

No	選択肢	回答数	比率(全体, %)	比率(有効, %)
1	実施せず	584	99.3	99.3
2	がけ崩れ・土石流	4	0.7	0.7
	全体	588	100.0	100.0

Q7避難訓練・防災訓練を実施した場合、その訓練ではどのような災害(この設問のみ、火災を対象とします)を想定しましたか。当てはまる災害の種類に○をつけてください。

No	選択肢	回答数	比率(全体, %)	比率(有効, %)
1	実施せず	584	99.3	99.3
2	火山活動	4	0.7	0.7
	全体	588	100.0	100.0

Q8貴校が所在する場所は、次に挙げるような自然災害に対して安全だと思いますか。近いものをそれぞれ一つ選び、数字に○をつけてください。地震

No	選択肢	回答数	比率(全体, %)	比率(有効, %)
1	安全	44	7.5	7.5
2	まあ安全	228	38.8	39.0
3	やや危険	138	23.5	23.6
4	危険	121	20.6	20.7
5	わからない	54	9.2	9.2
	有効回答合計	585	99.6	100.0
	無回答	3	0.5	
	全体	588	100.0	

Q9貴校が所在する場所は、次に挙げるような自然災害に対して安全だと思いますか。近いものをそれぞれ一つ選び、数字に○をつけてください。津波

No	選択肢	回答数	比率(全体, %)	比率(有効, %)
1	安全	472	80.3	81.0
2	まあ安全	41	7.0	7.0
3	やや危険	17	2.9	2.9
4	危険	52	8.8	8.9
5	わからない	1	0.2	0.2
	有効回答合計	583	99.2	100.0
	無回答	5	0.9	
	全体	588	100.0	

Q10貴校が所在する場所は、次に挙げるような自然災害に対して安全だと思いますか。近いものをそれぞれ一つ選び、数字に○をつけてください。大雨・洪水

No	選択肢	回答数	比率(全体, %)	比率(有効, %)
1	安全	88	15.0	15.0
2	まあ安全	224	38.1	38.3
3	やや危険	168	28.6	28.7
4	危険	94	16.0	16.1
5	わからない	11	1.9	1.9
	有効回答合計	585	99.6	100.0
	無回答	3	0.5	
	全体	588	100.0	

Q11貴校が所在する場所は、次に挙げるような自然災害に対して安全だと思いますか。近いものをそれぞれ一つ選び、数字に○をつけてください。がけ崩れ・土石流

No	選択肢	回答数	比率(全体, %)	比率(有効, %)
1	安全	175	29.8	30.0
2	まあ安全	184	31.3	31.5
3	やや危険	142	24.1	24.3
4	危険	69	11.7	11.8
5	わからない	14	2.4	2.4
	有効回答合計	584	99.3	100.0
	無回答	4	0.7	
	全体	588	100.0	100.0

Q12貴校が所在する場所は、次に挙げるような自然災害に対して安全だと思いますか。近いものをそれぞれ一つ選び、数字に○をつけてください。火山活動

No	選択肢	回答数	比率(全体, %)	比率(有効, %)
1	安全	377	64.1	64.4
2	まあ安全	119	20.2	20.3
3	やや危険	37	6.3	6.3
4	危険	20	3.4	3.4
5	わからない	32	5.4	5.5
	有効回答合計	585	99.4	100.0
	無回答	3	0.5	
	全体	588	100.0	

Q13児童・生徒が在籍している時間中に、気象台から気象警報(大雨, 洪水, 大雪, 暴風など. 津波は除く)が発表された場合、どのように対応する計画になっていますか.

No	選択肢	回答数	比率(全体, %)	比率(有効, %)
1	原則として、全生徒を帰宅させる	108	18.4	18.4
2	保護者の送迎など、安全な手段が確保された生徒に限り帰宅させる	149	25.3	25.4
3	個別の状況を見て判断する	321	54.6	54.8
4	いずれも該当しない	8	1.4	1.4
	有効回答合計	586	99.7	100.0
	無回答	2	0.3	
	全体	588	100.0	

Q14児童・生徒を対象に、自然災害を主な内容とした副読本や、パンフレットを配布していますか.

No	選択肢	回答数	比率(全体, %)	比率(有効, %)
1	児童・生徒全員を対象に配布している	85	14.5	14.6
2	特定学年にのみ配布している	26	4.4	4.5
3	一部の児童・生徒に配布している	9	1.5	1.5
4	配布していない	417	70.9	71.5
5	詳しく把握していない	46	7.8	7.9
	有効回答合計	583	99.1	100.0
	無回答	5	0.9	
	全体	588	100.0	

Q15児童・生徒を対象に、貴校教職員以外の外部専門家や災害経験者などによる、自然災害に関する講演を実施していますか. 避難訓練の際の消防署員による「講評」は除きます.

No	選択肢	回答数	比率(全体, %)	比率(有効, %)
1	児童・生徒全員を対象に実施している	23	3.9	3.9
2	特定学年にのみ実施している	8	1.4	1.4
3	一部の児童・生徒を対象に実施している	8	1.4	1.4
4	実施していない	547	93.0	93.0
5	詳しく把握していない	2	0.3	0.3
	有効回答合計	588	100.0	100.0
	無回答	0	0.0	
	全体	588	100.0	

Q16児童・生徒を対象に、岩手県立総合防災センター(矢巾町)のような、自然災害を主な対象とした展示・体験施設の見学を実施していますか. 消防署の見学は除きます.

No	選択肢	回答数	比率(全体, %)	比率(有効, %)
1	児童・生徒全員を対象に実施している	4	0.7	0.7
2	特定学年にのみ実施している	35	6.0	6.0
3	一部の児童・生徒を対象に実施している	21	3.6	3.6
4	実施していない	523	88.9	88.9
5	詳しく把握していない	5	0.9	0.9
	有効回答合計	588	100.0	100.0
	無回答			
	全体	588	100.0	

Q17貴校教職員のなかには、職務の一環として、自然災害に関する研修会や講演会を受講・参加している人がいますか.

No	選択肢	回答数	比率(全体, %)	比率(有効, %)
1	受講・参加している教職員がいる	121	20.6	20.7
2	受講・参加している教職員はいない	374	63.6	63.9
3	詳しく把握していない	90	15.3	15.4
	有効回答合計	585	99.5	100.0
	無回答	3	0.5	
	全体	588	100.0	

Q18校内で、過去の災害の記録や、防災対策などに関する写真、パネルなどの展示を行ったことがありますか。ここで「展示」とは、複数の写真やパネルを並べて掲示するもので、啓発ポスターを1枚掲示するような形態は除きます。

No	選択肢	回答数	比率(全体, %)	比率(有効, %)
1	常設の展示を行っている	11	1.9	1.9
2	期間を限った展示を行った	34	5.8	5.8
3	行っていない	516	87.8	87.8
4	詳しく把握していない	27	4.6	4.6
	有効回答合計	588	100.0	100.0
	無回答	0	0.0	
	全体	588	100.0	

貴校では、以下のような内容についての紹介や学習を、教科教育・総合的学習の時間・特別活動などの場で実施していますか。

Q19岩手県で過去に発生した三陸津波、チリ津波などの津波災害について

No	選択肢	回答数	比率(全体, %)	比率(有効, %)
1	児童・生徒全員を対象に実施している	72	12.2	12.3
2	特定学年にのみ実施している	111	18.9	18.9
3	一部の児童・生徒を対象に実施している	27	4.6	4.6
4	実施していない	340	57.8	58.0
5	詳しく把握していない	36	6.1	6.1
	有効回答合計	586	99.7	100.0
	無回答	2	0.3	
	全体	588	100.0	

Q20岩手県で過去に発生したカスリン台風、アイオン台風などの台風や大雨による災害について

No	選択肢	回答数	比率(全体, %)	比率(有効, %)
1	児童・生徒全員を対象に実施している	19	3.2	3.2
2	特定学年にのみ実施している	97	16.5	16.5
3	一部の児童・生徒を対象に実施している	34	5.8	5.8
4	実施していない	403	68.5	68.7
5	詳しく把握していない	34	5.8	5.8
	有効回答合計	587	99.8	100.0
	無回答	1	0.2	
	全体	588	100.0	

Q21岩手県で将来発生が予想される地震、津波、台風や大雨による災害、火山災害について

No	選択肢	回答数	比率(全体, %)	比率(有効, %)
1	児童・生徒全員を対象に実施している	112	19.0	19.1
2	特定学年にのみ実施している	75	12.8	12.8
3	一部の児童・生徒を対象に実施している	26	4.4	4.4
4	実施していない	333	56.6	56.8
5	詳しく把握していない	40	6.8	6.8
	有効回答合計	586	99.7	100.0
	無回答	2	0.3	
	全体	588	100.0	

Q22自然災害を主な内容とした副読本・パンフレットの配布

No	選択肢	回答数	比率(全体, %)	比率(有効, %)
1	確実に実施できる	245	41.7	42.2
2	実施の可能性は高い	249	42.3	42.9
3	実施の可能性は低い	75	12.8	12.9
4	実施は不可能である	2	0.3	0.3
5	回答できない	9	1.5	1.6
	有効回答合計	580	98.6	100.0
	無回答	8	1.4	
	全体	588	100.0	

Q23教職員以外の外部専門家や災害経験者などによる、自然災害に関する講演

No	選択肢	回答数	比率(全体, %)	比率(有効, %)
有効	確実に実施できる	16	2.7	2.8
	実施の可能性は高い	235	40.0	40.6
	実施の可能性は低い	281	47.8	48.5
	実施は不可能である	14	2.4	2.4
	回答できない	33	5.6	5.7
	有効回答合計	579	98.5	100.0
	無回答	9	1.5	
	全体	588	100.0	

Q24自然災害を主な内容としたビデオ・DVDの上映

No	選択肢	回答数	比率(全体, %)	比率(有効, %)
1	確実に実施できる	53	9.0	9.1
2	実施の可能性は高い	362	61.6	62.0
3	実施の可能性は低い	148	25.2	25.3
4	実施は不可能である	3	0.5	0.5
5	回答できない	18	3.1	3.1
	有効回答合計	584	99.3	100.0
	無回答	4	0.7	
	全体	588	100.0	

Q25自然災害を主な対象とした展示・体験施設の見学

No	選択肢	回答数	比率(全体, %)	比率(有効, %)
1	確実に実施できる	6	1.0	1.0
2	実施の可能性は高い	121	20.6	20.9
3	実施の可能性は低い	392	66.7	67.6
4	実施は不可能である	33	5.6	5.7
5	回答できない	28	4.8	4.8
	有効回答合計	580	98.6	100.0
	無回答	8	1.4	
	全体	588	100.0	

Q26教職員による自然災害に関する研修会や講演会の受講・参加(参加費は無料)

No	選択肢	回答数	比率(全体, %)	比率(有効, %)
1	確実に実施できる	18	3.1	3.1
2	実施の可能性は高い	271	46.1	46.6
3	実施の可能性は低い	249	42.3	42.8
4	実施は不可能である	13	2.2	2.2
5	回答できない	31	5.3	5.3
	有効回答合計	582	99.0	100.0
	無回答	6	1.0	
	全体	588	100.0	

Q27過去の自然災害に関する写真・パネルの展示

No	選択肢	回答数	比率(全体, %)	比率(有効, %)
1	確実に実施できる	44	7.5	7.6
2	実施の可能性は高い	317	53.9	54.7
3	実施の可能性は低い	192	32.7	33.1
4	実施は不可能である	10	1.7	1.7
5	回答できない	17	2.9	2.9
	有効回答合計	580	98.6	100.0
	無回答	8	1.4	
	全体	588	100.0	

Q28岩手県で過去に発生した津波や大雨などの災害について教職員が教えること

No	選択肢	回答数	比率(全体, %)	比率(有効, %)
1	確実に実施できる	58	9.9	10.0
2	実施の可能性は高い	303	51.5	52.1
3	実施の可能性は低い	183	31.1	31.4
4	実施は不可能である	10	1.7	1.7
5	回答できない	28	4.8	4.8
	有効回答合計	582	99.0	100.0
	無回答	6	1.0	
	全体	588	100.0	

Q29岩手県で将来発生が予想されている災害について教職員が教えること

No	選択肢	回答数	比率(全体, %)	比率(有効, %)
1	確実に実施できる	50	8.5	8.6
2	実施の可能性は高い	321	54.6	55.2
3	実施の可能性は低い	169	28.7	29.0
4	実施は不可能である	12	2.0	2.1
5	回答できない	30	5.1	5.2
	有効回答合計	582	99.0	100.0
	無回答	6	1.0	
	全体	588	100.0	

Q30通学路や学区内の防災マップ作り

No	選択肢	回答数	比率(全体, %)	比率(有効, %)
1	確実に実施できる	104	17.7	17.9
2	実施の可能性は高い	264	44.9	45.5
3	実施の可能性は低い	167	28.4	28.8
4	実施は不可能である	15	2.6	2.6
5	回答できない	30	5.1	5.2
	有効回答合計	580	98.6	100.0
	無回答	8	1.4	
	全体	588	100.0	

Q31仮に、学校側は時間を提供するのみでよいという条件で、授業時間中に、なんらかの防災教育を行うとしたら、1年間に何時間くらいを当てることが可能だと思いますか。最も多くの時間を当てることができる学年の場合についてお答え下さい。

No	選択肢	回答数	比率(全体, %)	比率(有効, %)
1	15時間以上(1学期中の毎週1回以上)	1	0.2	0.2
2	10時間程度(1学期中の2/3の週に1回くらい)	1	0.2	0.2
3	5時間程度(1学期中の1/3の週に1回くらい)	20	3.4	3.4
4	2~3時間くらい	336	57.1	57.3
5	1時間	201	34.2	34.3
6	新たに授業時間を使った防災教育を行うことは困難だと思う	27	4.6	4.6
	有効回答合計	586	99.7	100.0
	無回答	2	0.3	
	全体	588	100.0	

Q32貴校において、総合的な学習の時間や特別活動などの教科教育以外の時間に取り上げる題材・テーマとして、「自然災害」や「防災」は、他の様々な題材(「環境」など個別的テーマのほか、進路指導なども含みます)と比較すると、どの程度の重要性があると考えられるでしょうか。

No	選択肢	回答数	比率(全体, %)	比率(有効, %)
1	非常に重要性が高い	40	6.8	6.8
2	重要性はやや高い	181	30.8	31.0
3	重要性はやや低い	313	53.2	53.6
4	ほとんど重要性はない	20	3.4	3.4
5	回答できない	30	5.1	5.1
	有効回答合計	584	99.3	100.0
	無回答	4	0.7	
	全体	588	100.0	

Q34 貴校の学校種別を選んでください。

No	選択肢	回答数	比率(全体, %)	比率(有効, %)
1	小学校	348	59.2	59.3
2	中学校	170	28.9	29.0
3	高等学校	69	11.7	11.8
	有効回答合計	587	99.8	100.0
	無回答	1	0.2	
	全体	588	100.0	

岩手県における初等・中等教育段階での防災教育の実施状況について 報告書

2008年8月25日発行

著者・発行者 岩手県立大学総合政策学部牛山研究室
岩手県大船渡地方振興局

照会先 岩手県立大学 総合政策学部 牛山研究室（准教授 牛山素行）
〒020-0193 岩手県岩手郡滝沢村滝沢字巣子 152-52
電話：019-694-2722 FAX：019-694-2722
E-mail：ushiyama@disaster-i.net
URL：http://disaster-i.net/